【土木史研究　第21号　2001年５月　自由投稿論文】

岡山市街地の水路に残る石造構造物の悉皆調査 *

Entire Survey of Stone Structures alongside of Former Irrigation Canals in the Urban Area of Okayama City

馬場 俊介**, 樋口 輝久***, 青木 厚実****,
河原 輝明****, 砂野 有紀****

By Shunsuke BABA,Teruhisa HIGUCHI,Atsumi AOKI,
Teruaki KAWAHARA and Yuki SUNANO

岡山市街地にはかつての灌漑農業の歴史を物語る多くの用水路が網の目のように残り、そこに瀬戸内の石造文化圏ならではの石造物（桁橋、水門、階段など）が数多く残っている。こうした独自の風致・風景が、その価値が知られないままにどんどん風化・消滅してしまうことは、地域性のあるまちづくりを考える上でしのび難いことである。そこで、市内中心部全域に残存する水路関連の石造施設の悉皆調査を行い、今後のあり方を考える上で基礎資料を提示することにした。調査によって全部で 1739 件もの石造物と多くの石積護岸が残っていることを確認することができた。

1. はじめに

岡山市街地を特徴付けている風景の一つは、網の目のように張りめぐらされた灌漑用水路と、水路沿いに見られる各種の石造物である。これは岡山市周辺が古代から近代に至るまで常に水田農耕の中心地であったという歴史と、市南部の児島湾周辺で産出される花崗岩が安価で堅固な石材として大量に流通してきたという事実の複合した結果である。

石造施設を構成する要素は、用水路本体の石積護岸、水面に下りて行くための石階段、水路から水路へと水を分岐させる石水門、水路を渡って住宅にアクセスするための石桁橋、水路上に工作物を置くための張出し石梁、そして、水路に沿って置かれた石碑や石灯籠などである。あるものは農業目的、あるものは市街地化した後に付け加えられたものと目的は二分しているが、両者が相まって、岡山らしい空間が誕生している。

しかし現実には、その実態と価値が認識されないまま石造物の撤去、コンクリート化が進められており、新たな視点に立ったまちづくりのあり方が模索されるべき時期に来ていると痛感させられる。本調査の目的は、用水路の石造構造物の実態を明らかにし、この岡山独自の歴史的・文化的風景の保全・活用のための基礎資料を提供することにある。

岡山市、倉敷市周辺の石造土木施設については、馬場・樋口らによる各種現地調査[1,2,3,4]によって、干拓樋門、配水樋門、運河閘門、石桁橋、石懸樋、巻石護岸、巻石防波堤、巻石塩田樋などさまざまな施設・遺構の存在が確認され、それらが瀬戸内の石造文化圏の中核を担ってきた様子が徐々に明らかにされてきた。今回の調査は、大型施設の残る田園部ではなく、都市化された市街地内に残る水路網とそれに付随する小規模な石造物に着目し、新たな現地調査を実施したものである。石造構造物の内訳は、桁橋、水門、階段、張出し、段差工、排水口、特殊護岸、碑、灯籠などである。

石桁橋は 785 件と全体に占める割合が最も大きい。ただし、岡山県下の秀天橋（橋長 36m、9 径間、江戸後～末期、玉野市）、鴨方の石桁群（3 径間が 7 橋、明治 20 年代?、鴨方町）のような規模の大きなものは存在せず、その規模は、岡山市内の藩学・泮池橋（4 径間、江戸期）、大窪の稲荷橋（4径間、明治7年）よりも小さく、全体の 98%は 1 径間の小規模橋（最大でも 2 径間）にすぎない。また、利用形態の変化に伴い、桁橋の天端がセメント等で舗装されたりして「石」であることが判りにくくなっているものも多い。こうした個々の桁橋は文化財的な価値からは無縁の存在かもしれないが、それらが個人の住居へのアクセス路として日常的に使われてきたという生活風習、そして、水路上に近接して石橋が連続するという風景に価値を見出すことができる。

石水門は 217 件と数は少ないが、桁橋と違って水路固有の構造物であり、特に笠木（「木」と書くが石造）とタテリ（笠木を載せる石柱）が残っている場合には、格別の存在感がある。ただし、笠木をもつ水門は全体の 5%にすぎず、水路側壁に樋板を滑らせる溝が残っているだけのことも多い。同じ岡山市内でも、妹尾地区や西大

* Keyword ： 石造物、灌漑用水路、桁橋、水門、階段、風景
** 正会員　岡山大学環境理工学部 教授　　*** 正会員　岡山大学環境理工学部 助手
（〒700-8530 岡山市津島中 3-1-1）　　**** 調査時は岡山大学環境理工学部環境デザイン工学科の４年生

寺地区に見られるような近世の大型干拓樋門を市街地で見かけることはない。

用水路の側壁の一部はコンクリート化されてしまっているが、依然としてかなりの区間で石積護岸を見ることができる。護岸石積の方法は、布積や布積くずしの備前積（土蔵などに多い）から、目地がモルタルで粗雑に塗り込められた谷積まで様々な形態が見られる。その護岸に付随する構造物で最も多かったのが石階段で、547件と桁橋に次ぐ残存数を記録した。階段は、桁橋と違い日常的に使われているわけではないので、補修されずにオリジナルの形態を留めているケースが多い。階段はまた、その向きが水路に直交するか平行するかで見た目の雰囲気が大きく異なり、風景の演出効果が高い。水路の側壁には、階段以外に、石板や石梁（石棒）が宙に張り出した工作物が随所で見られたが（81 件）、それは、桁橋や水門の笠木と並び、硬質の花崗岩ならではの形態といえる。

用水路に付帯するもう一つの重要な石造物は石碑である。その価値の一つは、その他の石造物と違って設立年代が特定できるものが多いこと、そして、農耕の神に捧げる目的で設置されたものについては、文化史的な意義が伴っていることである。

2. 岡山市街地と水路網

岡山市の市域のうち**図 1** に示すエリアを調査対象とした。西は笹ヶ瀬川、東は百間川で仕切られた 12km四方の地域は、今ではその多くが市街地となっているが、かつては広大な水田地帯であった。下に示す**図 1** 中央の岡山駅と後楽園により挟まれた 1.5km×2kmの部分が岡山藩の城下町であったところで、これより北側は条里制の時代にまで遡る農耕地、南側は江戸初期の新田開発に伴って生まれた農耕地、最南部が岡山藩営の沖新田と、昭和戦前の児島湾干拓（の一部）というように、海に向かって耕地を広げていった歴史が一目瞭然である（図中、おおよその境界を「大きな丸」で示す）。灰色で示された用水路は、山の部分を除いた全域に網の目のように張りめぐらされているが、それらが現在見るような形態となったのは、石材加工技術の発達した江戸期以降のことと思われる（それまでにも用水路は使われていたが、土と木でできた構造であったと推測される。また、流路も現在のものと一致していたかは不明である）。

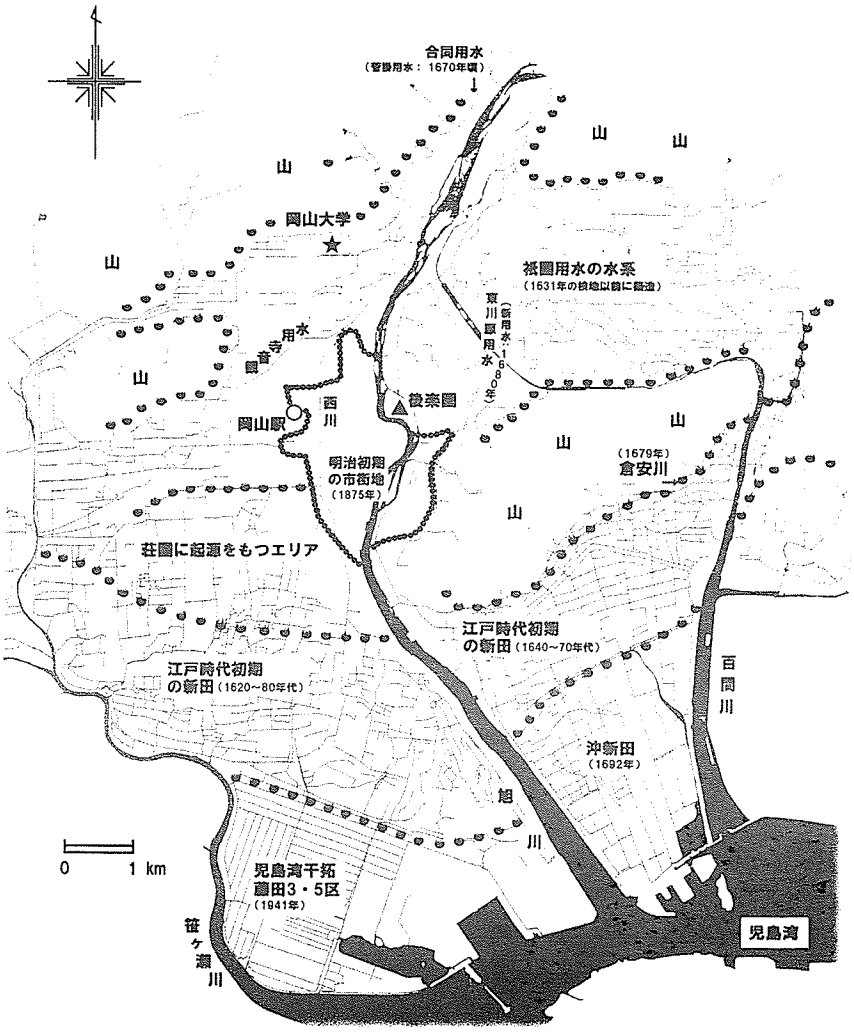

図 1 調査エリアと農業開発の進展（参考文献 5, 6, 7 の記述をもとに著者作成）

市街地の中を用水路が縦横に交差する岡山の風景は、城下町の周囲で積極的に農業開発が行われた結果である。岡山藩で最初の石造水門が造られた 1660 年代以降、石材が安価かつ豊富に流通するとともに、その加工技術も急速に発達していった。その一般論から、直ちに、現在見られるような石構造物の多い用水路の光景が江戸時代からあったと即断することは危険であり、恐らく当時は、水路沿いの一部の農家の護岸に石積補強がされていた程度であったと推測される。階段は、用水路を洗濯や野菜の洗い場として用いるための必需品であったが、農村地帯での設置密度は疎であったと考えられる。農作業用の桁橋も同様であろう。そうした状態が一変して、現在見られるうように桁橋、階段などがかなりの頻度で出現するようになるのは、明治以降に旧城下町の周辺から市街地化が始まって後のことであろう。用水路に沿って建てられた家々の住民は、水路沿いの道路に出るために自己費用で橋を架ける必要に迫られた。それが安価で定型的な石桁がどこでも使われた理由と思われる。また、住民が増加すれば、水面に下りて洗濯や洗い物をするためにはより多くの階段が必要となったのであろう。さらに、用水沿いの町並みが稠密化すれば、水路上に物を置かざるを得なくなり、壁から梁を張る出させて基礎とする必要も生じた違いない。一方、市街地化に伴って不要となったのは用水の分配に係る水門であり、現在、水門の保存状態がきわめて悪いのも、長期間にわたって放置されてき結果であろう。

3. 調査の概要

本調査は 2000 年 6 月～12 月の半年間をかけて実施された。調査人員は 3 名（共著者の最後の 3 人）で、卒業研究の一環として企画・実行された。調査対象は、用水路本体と、水路近傍に所在するすべての石造物とした。調査方法は、縮尺 1500 分の 1 の住宅地図に記載されている幅 50cm以上の用水路をすべて徒歩で確認しながら踏査し、発見された石造物の位置と寸法を記録し、重要と思われるものは記録のために撮影した。時間的制約のため文献調査、ヒヤリング等は一切行わなかった。以下、①桁橋、②水門、③階段、④張出し、⑤段差工、排水口、特殊護岸、⑥碑、灯籠、その他、の 6 つに分けて整理・紹介する。

表 1.1 桁橋の石板枚数（天端の石材が露出していてカウント可能なものに限る）

枚数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16 以上
橋数	109	47	95	56	40	13	4	4	3	4	1	1	2	1	1	1

表 1.2 桁橋の長さ（1 径間のものも 2 径間のものも区別しない）

橋長	1m 以下	1～1.5m	1.5～2m	2～2.5m	2.5～3m	3～3.5m	3.5～4m	4～4.5m	4.5～5m	5～5.5m	5.5～6m	6～6.5m	6.5～7m	7～7.5m	7.5～8m	8m 以上
橋数	72	185	215	99	43	46	31	13	9	5	6	4	3	0	2	1

3.1 桁橋

桁橋の大半は、用水路に面した住居に対岸の道路からアクセスする通路であり、長さ 1～5m程度の石板を 1～5 本並べて架け渡しただけの簡単なものである。定型的に加工された地元産の花崗岩が使われているが、硬質のため扁平で自動車の通行にも耐えられ、代替品として盛んに使われている RC 板と比べても遜色がない。石桁橋の総数は先に示したように 785 橋だが、半数以上が何等かの形で改修を受けており、石がそのままの形で観察できるのは 382 橋と全体の 49%にすぎない（**表 2.1** の構造欄で「S」とのみ表示されているもの）。その 382 橋について、桁を構成する石板の枚数を調べたものが上に示した**表 1.1** である。1 枚だけの石板（幅 40 cm程度）では安全に渡れないので、最も多い 1 枚の桁

写真 1.1 保存状態の良い桁橋
（北長瀬の西川水系）

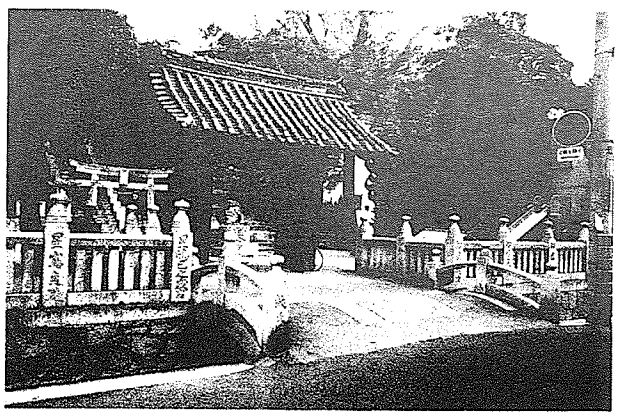

写真 1.2 神社の前の太鼓型をした桁橋
（三門中町の観音寺用水）

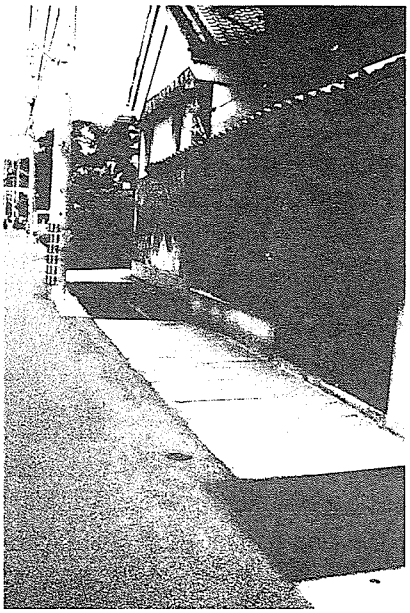

写真 1.3　家屋の前の暗渠状になった桁橋
（三門中町の観音寺用水）

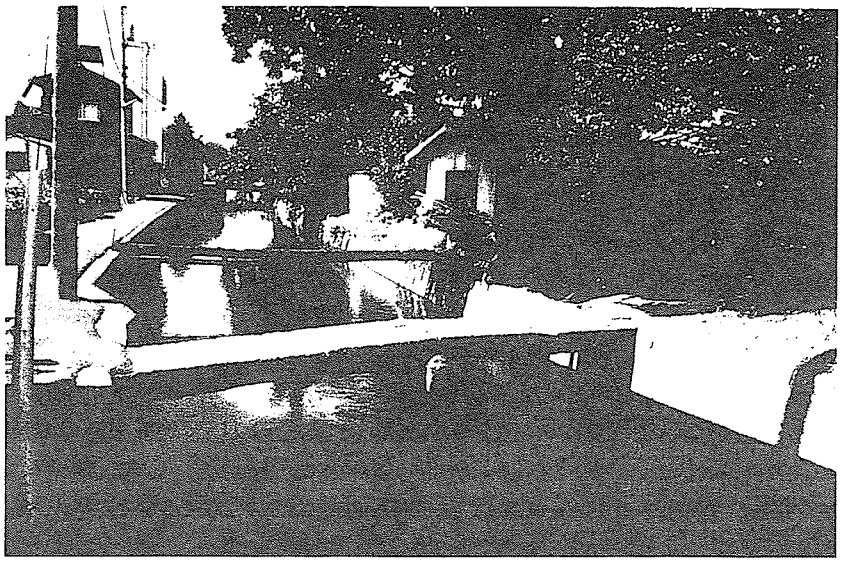

写真 1.4　2 径間の桁橋（三野 2 丁目の西川）

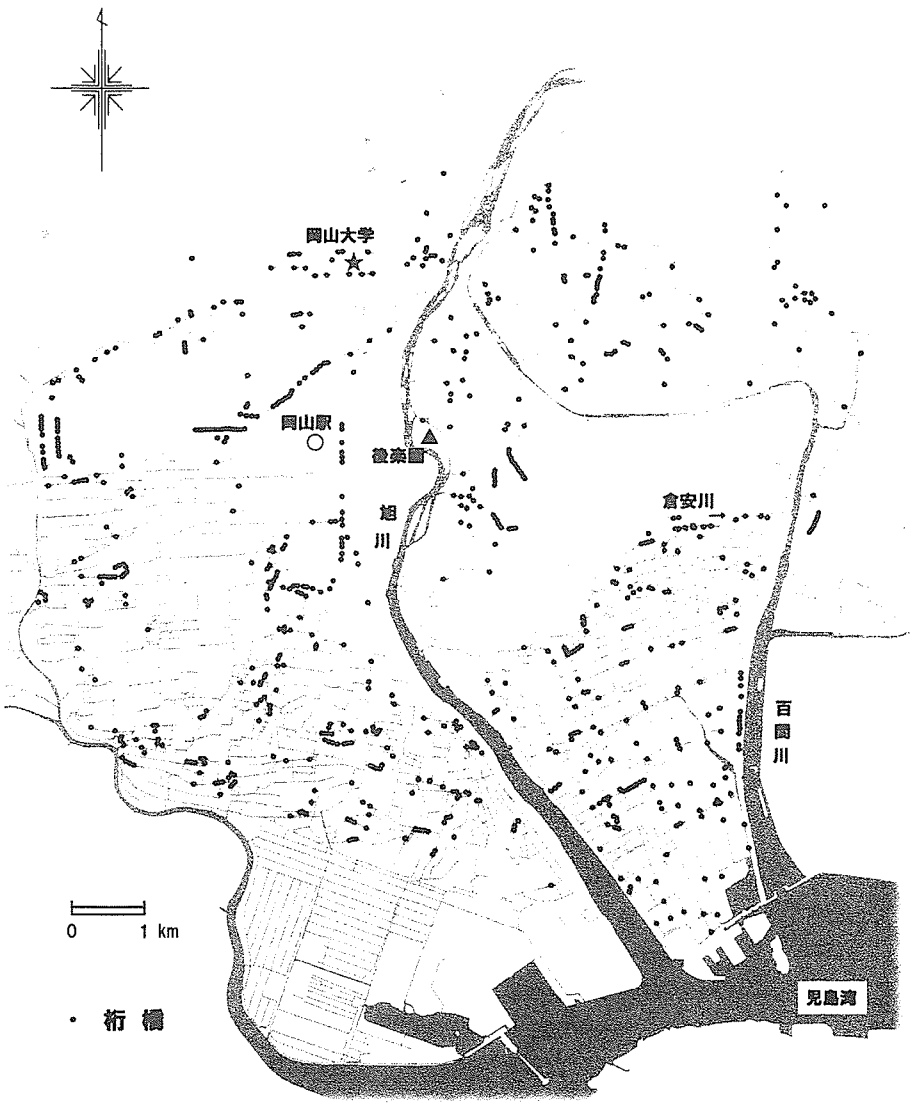

図 2.1　桁橋の分布

表 2.1 桁橋

町名	用水	構造	橋長	備考
青江4丁目	花栗用水*	S(5枚)	233cm	
青江5丁目	花栗用水*	SCS	159cm	上面がC被覆
泉田	枝川*	S(4枚)	295cm	石高欄
伊福町2丁目	観音寺用水	SCC	407cm	上面がC被覆
伊福町3丁目	観音寺用水	S(4枚)	372cm	
伊福町3丁目	観音寺用水	SCC	369cm	上面がC被覆
絵図町	観音寺用水	S(3枚)	361cm	
絵図町	観音寺用水	S(9枚)	334cm	石高欄(角落し)
絵図町	観音寺用水	SCC	428cm	石親柱(発起者:岡崎新次郎, 赤木浜吉, 遠藤忠吉)
大供本町	西川*	S(5枚)	106cm	石高欄
岡町	枝川	S(5枚)	227cm	桁数: 7→5 (破損のため)
御成町	御成川	S(5枚)	237cm	石高欄
門田屋敷1丁目	祇園用水*	SCS	208cm	上面がC被覆
祇園	後楽園用水	S(6枚)	334cm	**石柱橋脚(2径間)**
祇園	千間溝用水	S(3枚)	149cm	
北方2丁目	座主川*	SCC	300cm	石高欄(角落し)
北長瀬	西川*	S(4枚)	361cm	★, 石高欄(角落し), 石親柱
北長瀬	西川*	SCS	325cm	上面がC被覆
国富2丁目	祇園用水	SCC	452cm	上面がC被覆
国富2丁目	砂川	S(4枚)	189cm	
鹿田町2丁目	枝川*	S(5枚)	289cm	
宍甘	叶田川*	SCC	168cm	上面がC被覆
下	山手川	SCC	412cm	上面がC被覆, C高欄
下伊福本町	観音寺用水*	SCS	160cm	上面がC被覆
新保	枝川*	S(5枚)	153cm	
新保	枝川*	SCS	165cm	上面がC被覆
新保	枝川*	SCS	57cm	
清輝橋1丁目	西川	S(3枚)	588cm	真中の1本が2枚
谷万成1丁目	中の川*	S(3枚)	214cm	
津島笹が瀬	座主川*	S(14枚)	107cm	上面がC被覆
津島中3丁目	座主川	SCS	459cm	石高欄
津島新野2丁目	座主川*	S(2枚)	198cm	
津島東2丁目	座主川*	SCS	203cm	
津島福居1丁目	座主川*	S(3枚)	116cm	
津高	県道西側用水	SCC		**石柱橋脚(2径間)** C親柱,『笹ヶ瀬通』
当新田	下中野長川*	SCC	**646cm**	**石柱橋脚(2径間)**
富田	枝川*	S(4枚)	270cm	
中井	中田川	S(3枚)	359cm	
中井	中田川	S(4枚)	257cm	
中井~清水	中田川*	S(2枚)	376cm	鉄橋脚(2径間)
中川町	庄内川	SCS	501cm	**石柱橋脚(2径間)**
中仙道	西川*	S(10枚)	200cm	
西川原	百間川*	S(5枚)	365cm	
西野山町	中の川*	S(1枚)	173cm	
西古松	相模川	S(9枚)	385cm	石高欄
西古松	相模川	SCS	288cm	上面がC被覆
野殿東町	中の川*	S(5枚)	94cm	
野殿東町	中の川*	SCS	123cm	
浜野2丁目	西川*	S(5枚)	148cm	上面がC被覆
浜野4丁目	西川*	S(6枚)	204cm	
原尾島3丁目	百間川*	S(4枚)	218cm	
東野山町	中の川*	S(1枚)	214cm	
東古松2丁目	枝川*	S(10枚)	88cm	上に建物
日吉町	西川*	SCC	224cm	上面がC被覆
福成1丁目	西川*	S(5枚)	135cm	
藤崎~桑野	小用水	C		**石柱橋脚(2径間)**, 鉄高欄
古京町2丁目	祇園用水*	SCS	452cm	**石柱橋脚(2径間)**, 上面がC被覆, 石高欄
法界院	座主川*	SCC	276cm	
法界院	座主川*	SCC	276cm	
円山		S(10枚)	403cm	石高欄, 石親柱
円山		SCS	323cm	昭和12年5月, 石高欄, C親柱
三門中町	観音寺用水	CSC	199cm	★, 石親柱, 石高欄, 石4枚
三門中町	観音寺用水	S	182cm	上面が鉄板被覆
三門中町	観音寺用水	S(13枚)	188cm	
三門中町	観音寺用水	S(**21枚**)	170cm	★
三門中町	観音寺用水	SCS	183cm	上面がC被覆
三門西町	観音寺用水	S(6枚)	203cm	
三門東町	観音寺用水	SCC	225cm	上に家
南方3丁目	西川	CCS	**603cm**	石高欄, 石親柱 『新橋(しんばし)』
南中央町	枝川	S(1枚)	453cm	**石柱橋脚(2径間)**, 木高欄
三野1丁目~2丁目	西川	SCC	**686cm**	**石柱橋脚(2径間)**
三野2丁目	西川	S(3枚)	**612cm**	★, **石柱橋脚(2径間)**
矢坂東町	中の川*	S(3枚)	**677cm**	上面がC被覆
米倉	下中野長川*	S(3枚)	147cm	
米倉	下中野長川*	SCS	147cm	上面がC被覆

・用水の欄: *は、名称不明の枝用水であることを示す。
・構造の欄: S(石材の表面が見えている)、C(コンクリートで被覆)、SSCなど3文字の場合は、上流側側面、天端、下流側側面の状況を指し、Sが1文字の場合はSSSの略。カッコ内の数値は石梁の枚数(天端がSの場合のみ数えられる)。
・備考の欄: ★は、本文中で写真が紹介されているもの。

表 2.2 水門

町名	用水	幅(笠木長)	深さ	備考
青江2丁目	花栗用水*	133cm	118cm	
赤田	中田川*	56cm	97cm	
伊島町2丁目	座主川*	82cm	99cm	
浦安本町	福成川			昭和5年6月改築, 移築,『鷹樋水門』
江崎	川田用水*	66cm	61cm	
絵図町	観音寺用水	70cm	157cm	★
江並~藤崎	片岡用水	278cm	68cm	
江並~藤崎	片岡用水	403cm	115cm	
江並~藤崎	片岡用水	322cm	86cm	
沖元	5番立川		108cm	溝が片側のみ現存
学南町3丁目	座主川*	72cm	79cm	
京橋南町	旭川	305cm	252cm	
国富1丁目	祇園用水	(1) 126cm (2) 126cm	(1) 291cm (2) 291cm	**2連**
国富2丁目	砂川	155cm	117cm	
倉田	利平立川	227cm	81cm	
倉富~桑野	吉原立川	(1) 158cm (2) 306cm	(1) 112cm (2) 112cm	**2連**, 片側の溝はC製
桑野	大田用水	62cm (91cm)	41cm	**笠木とタテリ**が残る
桑野	大田用水	332cm		橋の下のため測定不能
桑野	四番川*	191cm (260cm)	200cm	**笠木とタテリ**が残る 昭和7年4月,『新開樋』
桑野	四番川	227cm	200cm	
四御神	古田樋尻川	91cm	75cm	
新保	枝川*	156cm	47cm	
高屋	祇園用水*	110cm	110cm	
津倉町1丁目	観音寺用水	207cm	83cm	
津倉町2丁目	観音寺用水*	132cm	64cm	
津島新野2丁目	座主川*	159cm	82cm	
津島東2丁目	座主川*	166cm	101cm	
津島東4丁目	座主川*	204cm	51cm	
津島福居1丁目	座主川*	147cm	92cm	
十日市西町	花栗用水	150cm	82cm	
当新田	枝川*	146cm	136cm	
徳吉町1丁目	御成川	189cm (366cm)	232cm	★, **笠木とタテリ**が残る 昭和5年10月,『国富水門』
豊成1丁目	田覚用水*	67cm	67cm	
長岡	下唐戸川	151cm	222cm	
中川町	庄内川*	68cm	166cm	
中川町	庄内川	(1) 223cm (622cm) (2) 224cm (622cm)	(1) 320cm (2) 320cm	**2連**, **笠木とタテリ**が残る 大正12年2月改築,『庄内水門』
橋津	新座主川*	124cm	91cm	水門はC製で作業台のみ石
西崎1丁目	観音寺用水*	137cm	76cm	
浜野3丁目	西川*	118cm (127cm)	210cm	★, **笠木とタテリ**が残る
東古松	相模川	128cm	165cm	
平井7丁目	祇園用水*	45cm (80cm)	175cm	**笠木とタテリ**が残る
平田	笹ヶ瀬川	352cm (455cm)	398cm	**笠木とタテリ**が残る 『平田樋門』
福田	下中野長川*	281cm	223cm	2つ存在したが, 1つは移築された
福田	相生川*	157cm	157cm	
福田	相生川	643cm	217cm	石碑あり
福泊	倉益用水	91cm	118cm	
福富中1丁目	西川*	88cm	107cm	片側の溝はC製
福成2丁目	西川*	81cm	99cm	
福成3丁目	西川*	224cm		
藤崎	四番川	(1) 262cm (2) 259cm (3) 257cm	(1) 253cm (2) 253cm (3) 253cm	**3連**, 中四番樋
藤崎	三番用水	(1) 271cm (2) 273cm	(1) 211cm (2) 211cm	★, **2連**
藤崎~桑野	小用水	392cm	78cm	
藤崎~桑野	小用水	(1) 257cm (2) 272cm	(1) 184cm (2) 184cm	**2連**
藤崎~桑野	小用水	(1) 296cm (2) 296cm	(1) 245cm (2) 245cm	**2連**
古京町2丁目	御成川	219cm	43cm	
古京町2丁目	祇園用水*	(1) 164cm (2) 167cm	(1) 148cm (2) 148cm	**2連**
法界院	座主川*	158cm	95cm	
円山	倉安川*	163cm	99cm	
三門東町	座主川*	117cm	120cm	
南方4丁目	西川*	106cm		
柳町2丁目	西川*	67cm	125cm	
大和町1丁目	座主川*	74cm	84cm	
米倉	下中野長川	357cm		

・幅、深さの欄: (1)(2)は、複数連の水門のおのおのの寸法を示す。
・備考の欄: ★は、本文中で写真が紹介されているもの。

橋が何に使われたものかは、文献調査が未着手の段階ではわからない。最も普通に使われているのは、枚数 3～5 の桁橋で、5 枚程度あれば自動車の進入も可能である。ただ、マイカーの進入路に使われているものの多くは、表面がセメントで舗装されていたり、RC 板や鋼板を用いて部分拡幅がされているケースが目立つ。先の**表 1.1** で 10 枚以上の場合は、橋というよりは、家の前の水路に蓋をした(暗渠化した)ようなイメージに近い(**写真 1.3** 参照)。

表 1.2(前ページ以前を参照)は、50cm刻みで橋長の頻度分布を調べたものである。最頻値は橋長 1.50～1.99mのグループで、次いで 1.00～1.49mのグループが多く、両者で全体の 55%を占める。橋の長さは用水路の幅と対応しているので、かなり狭い水路が多いことを示している。

桁橋の代表例を**写真 1.1～1.4** に、分布状況を**図 2.1** に、代表的な構造物のリストを**表 2.1** に示す(いずれも前ページ以前で紹介)。

3.2 水門

水門の多くは機能を停止しており、笠木とタテリの付いた完品で残っているものは全 217 件中 10 件にすぎない(例えば下の**写真 2.2、2.3**)。これらは少数ではあるが、もし残存している場合は、石造物の中で最も規模が大きく存在感もあり、そこにランドマークとしての付加価値を見い出すことができる。これ以外にも、笠木が RC 化・鋼製化されたもの(例えば下の**写真 2.4**)、水門の護岸だけが残るもの(例えば下の**写真 2.1**)、水路側壁に樋板を滑らせる溝だけが残っているものなど、さまざまな残存状況のものがある。

水門の分布状況を次ページの**図 2.2** に、代表的な構造物のリストを前ページの**表 2.2** に示す。

3.3 階段

階段は 547 件見つかったが、このうち水路に直交しているものは 401 件、水路に平行しているものは 142 件であった(他に、斜めが 3 件、円形が 1 件)。直交しているものは、さらに、側壁から水路に(凸に)張り出して階段が付いているケース(101 件)と、側壁を(凹に)掘り込んで階段が付けられているケース(300 件、例えば次ページの**写真 3.1**)に分かれる。平行しているものについては、凸型が 106 件、凹型が 36 件(同じく**写真 3.2**)と直交タイプと逆の傾向を示している。さらに、平行階段は、階段の下りる向きも 2 通りあり、上流に向かって下りるケース(58 件)と下流に向かって下りるケース(79 件)、両方が合い向かい合っているケース(1 件)の 3 種類に分かれる。いずれも昭和 30～40 年代までは現役で使われていたことと、使われなくなった後も水門と違って邪魔にならないためそのまま放置されており、残存状況は概して良好といえる。

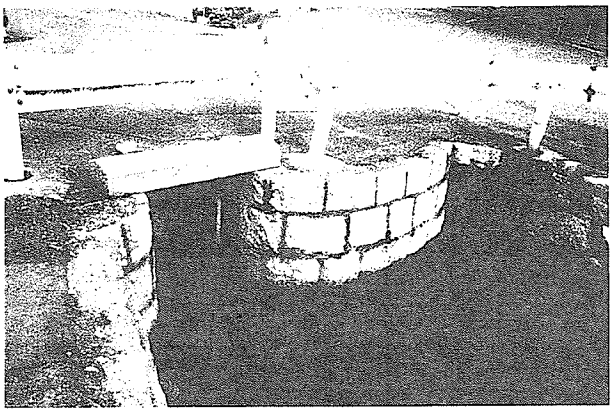

写真 2.1 擁壁のある小規模な分水樋門
(絵図町の観音寺用水)

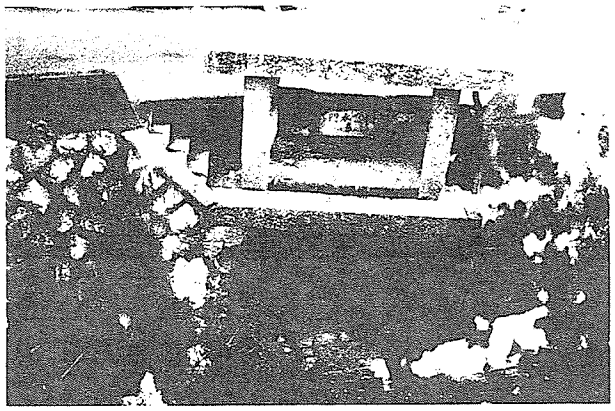

写真 2.2 刻銘のある『国富水門』
(徳吉町 1 丁目の御成川水系)

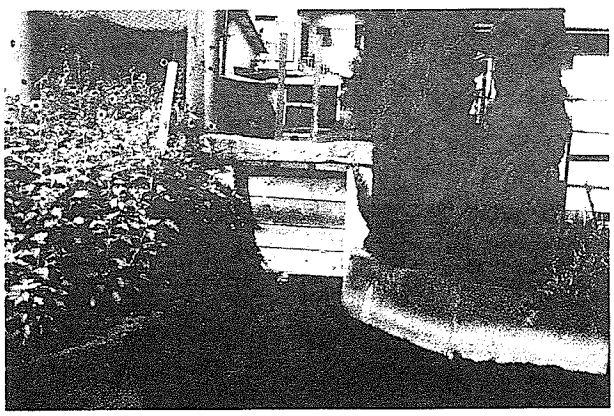

写真 2.3 小規模だが笠木のある水門
(浜野 3 丁目の西川水系)

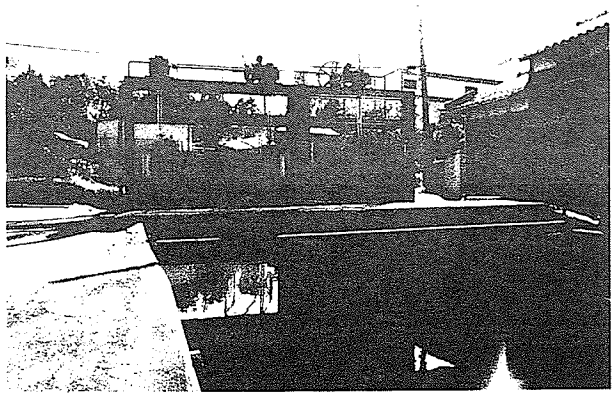

写真 2.4 上部が改修された 2 連の水門
(藤崎の三番用水)

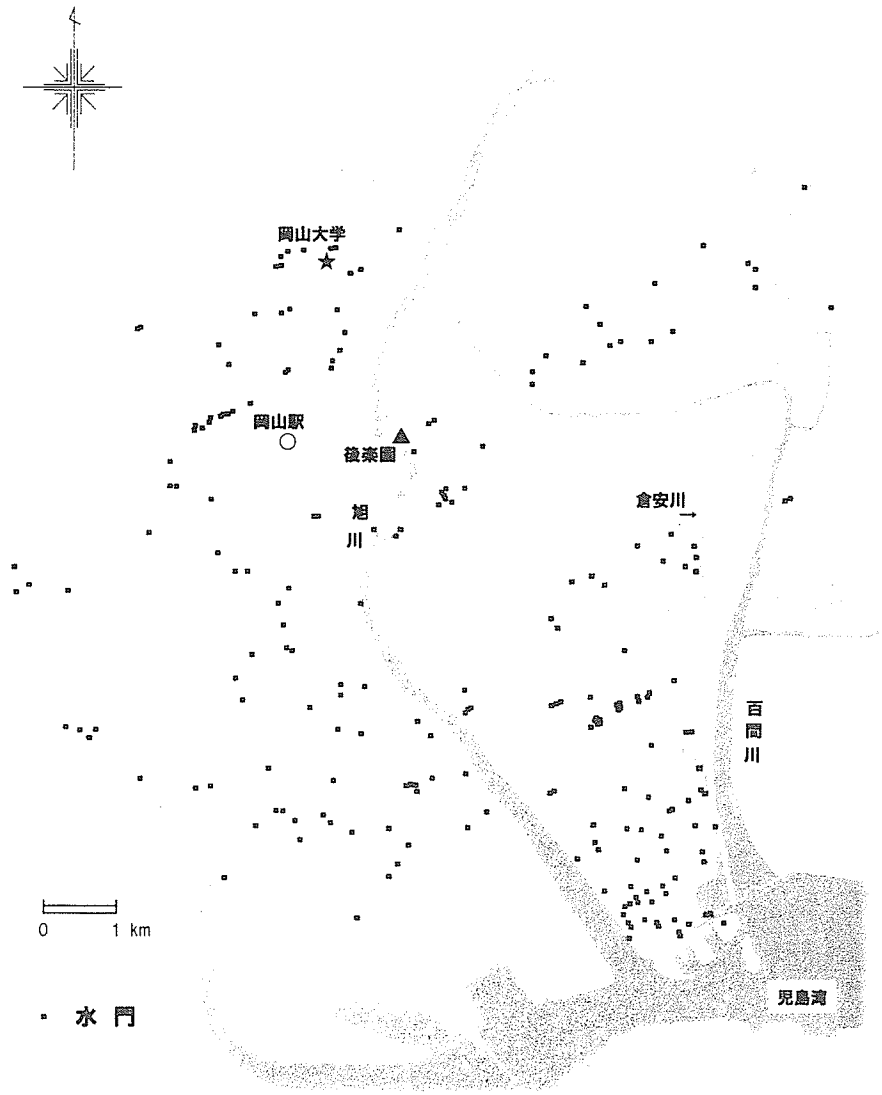

図 2.2 水門の分布

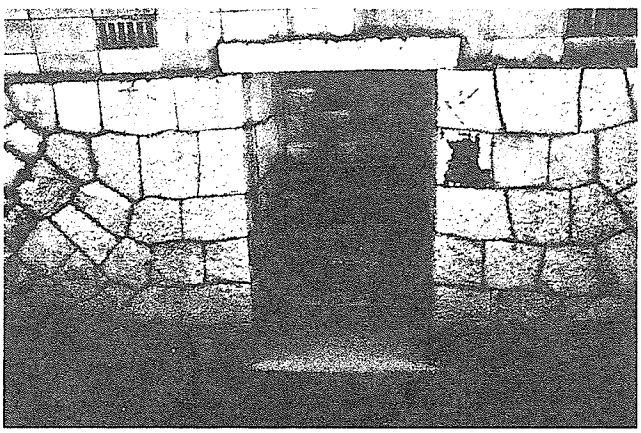

写真 3.1 用水路に直交する階段
（長岡の円蔵寺川水系）

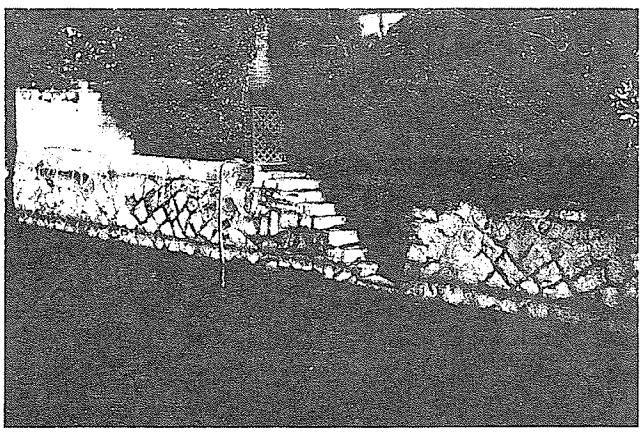

写真 3.2 用水路に平行する階段
（南方 3 丁目の西川）

上の写真からも判るように、護岸の石積は階段の前後で複雑に変化しており、風景上のアイスポットとなっている。

階段の分布状況を次ページの**図 2.3** に、代表的な構造物のリストをその次のページの**表 2.3** に示す。

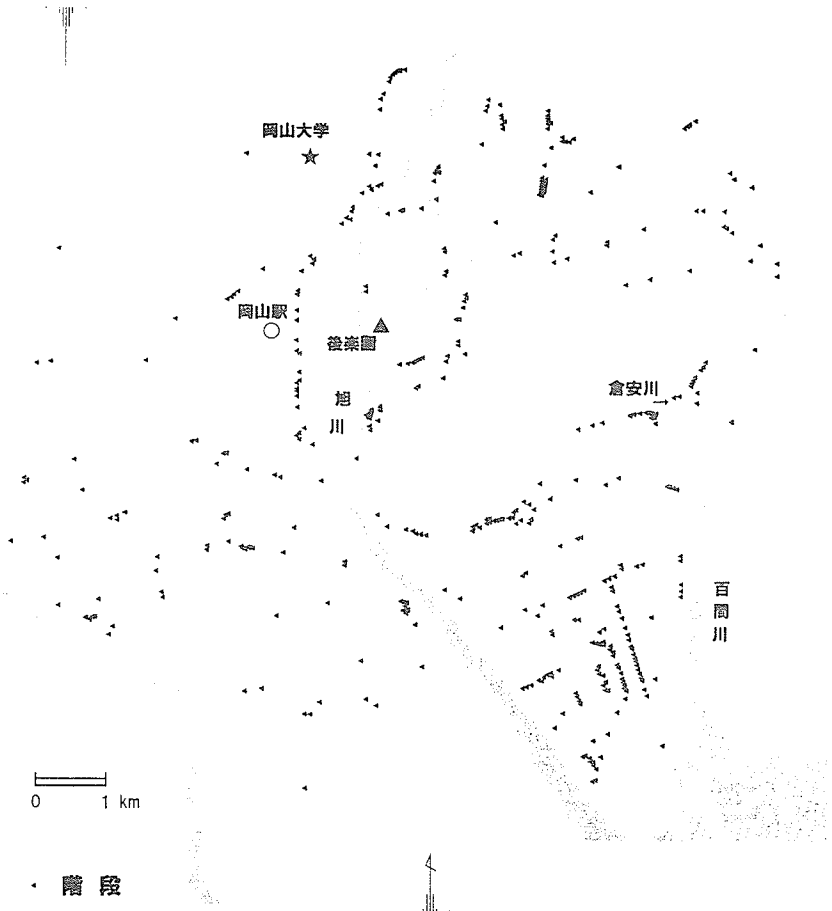

図 2.3 階段の分布

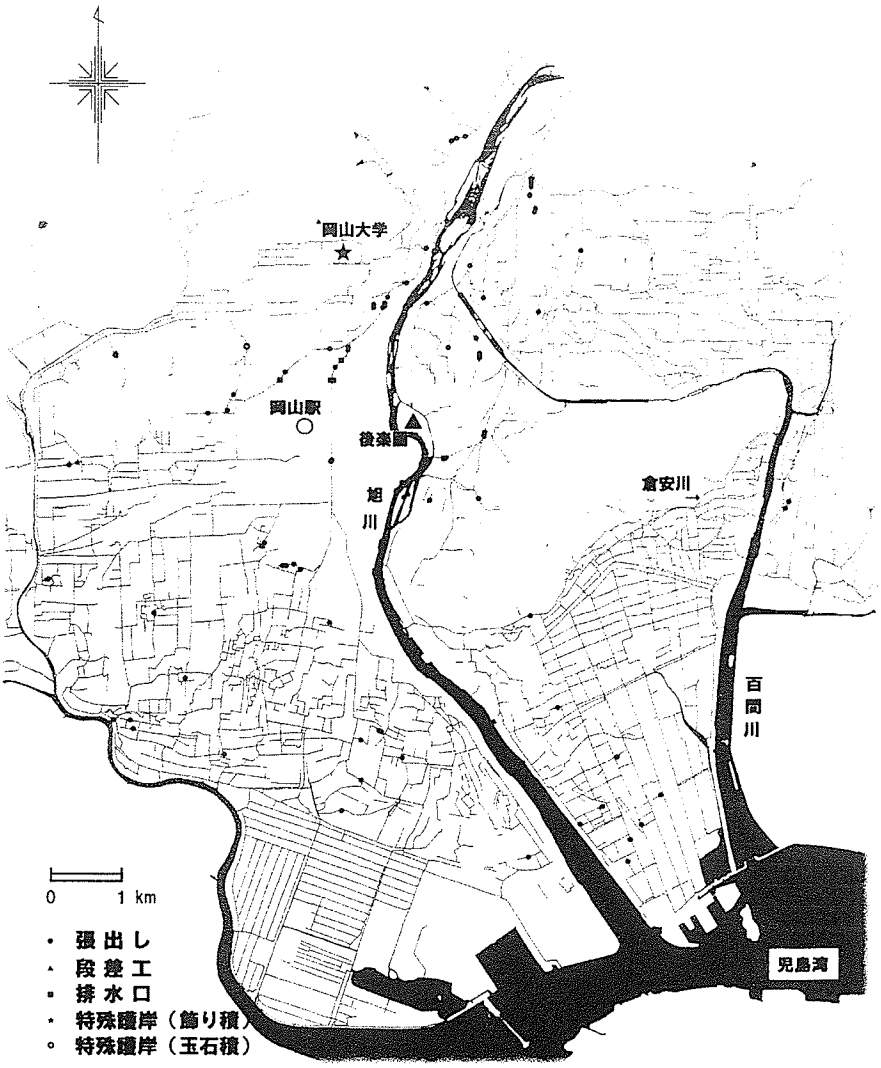

図 2.4 張出し、段差工、排水口、特殊護岸の分布

表 2.3 階段

町名	用水	段数	幅	備考
青江4丁目	花栗用水*	7	106cm	凹, 直交
江崎	祇園用水	7	127cm	凹, 直交
江崎	祇園用水	7	84cm	凹, 直交
江崎	祇園用水	7	146cm	凹, 直交
兼基	古田中溝川*	8	174cm	凹, 直交
北方4丁目	西川	7		凹, 直交
北方4丁目	西川	8		凹, 直交
桜橋1丁目	倉安川	**29**	90cm	凹, 直交
宿本町	合同用水	10	76cm	凹, 直交
宿本町	合同用水	10		凹, 平行(上流に下りる)
宿本町	合同用水	11		凹, 平行(下流に下りる)
宿本町	合同用水	12		凹, 直交
宿本町	合同用水	13	141cm	凹, 直交
宿本町	合同用水	**27**	138cm	凹, 平行(下流に下りる)
宿本町	合同用水	7	91cm	凹, 平行(向かい合う)
土田	中溝川	7	197cm	凹, 直交
中井町2丁目	西川	14		凹, 直交
長岡	円蔵寺川*	10	132cm	★, 凹, 直交
中川町	庄内川	9	93cm	凹, 直交
中川町	庄内川	9	93cm	凹, 直交
原	合同用水	9	124cm	凹, 直交
東川原	東川原用水	7	130cm	凹, 直交
東川原	東川原用水	8	181cm	凹, 直交
平井7丁目	祇園用水*	7	10 cm	凹, 直交
福泊	倉安川	7	62cm	凸, 平行(上流に下りる)
南方1丁目	西川	8	**244**cm	凹, 平行(下流に下りる)
南方1丁目	西川	8	**244**cm	凸, 平行(上流に下りる)
南方3丁目	西川	9		★, 凹 平行(下流に下りる)
南方4丁目	観音寺用水	7	101cm	凹, 平行(下流に下りる)
三野1丁目	合同用水	7	48cm	凹, 平行(上流に下りる)
三野1丁目	西川	8	162cm	凹, 直交
海吉	貝付排水路	7	46cm	凸, 平行(上流に下りる)
森下町	祇園用水*	12	92cm	凹, 直交
森下町	祇園用水*	13	120cm	凹, 直交
森下町	祇園用水*	14	21cm	凹, 直交
森下町	祇園用水*	15	176cm	凹, 直交
森下町	祇園用水*	9	89cm	凹, 直交

・備考の欄:「直交」は水路に直交した階段、「平行」は水路に平行に付けられた階段を意味する。(平行の場合、側壁から凸に張り出したものと、側壁を凹に掘り込んだものがある)
・備考の欄: ★は、本文中で写真が紹介されているもの。

表 2.4 張出し

町名	用水	種類	長さ	備考
江崎	祇園用水*	張出し板	120cm	
江並	二番用水	張出し板	117cm	
江並	祇園用水	張出し板	147cm	
奥田南町	枝川*	張出し板	107cm	
祇園	千間講	張出し板	154cm	
祇園	千間講	張出し板	61cm	
祇園	千間講	張出し板	76cm	
祇園	千間講	張出し板	95cm	
祇園	千間講	張出し板	112cm	
北方1丁目	西川	張出し梁		上に家の一部が載っている
国富2丁目	祇園用水	張出し板	150cm	
倉田	中島用水	張出し板	138cm	
鹿田町2丁目	西川*	張出し梁		2本
清水2丁目	祇園用水*	張出し板	74cm	
中納言町	御成川*	張出し板	57cm	
中井町1丁目	西川*	張出し梁		★, 2本
中井町1丁目	西川*	張出し梁		2本
中井町2丁目	西川	張出し梁		3本
中島	後楽園用水	張出し梁		2本
中島	三幡用水*	張出し板	91cm	
西川原	東川原用水*	張出し板	271cm	
西古松	相模川*	張出し梁		5本
野殿東町	笹ヶ瀬川*	張出し板	117cm	
東川原	東川原用水*	張出し板	140cm	
東川原	東川原用水*	張出し板	213cm	
福島4丁目	西川*	張出し板	87cm	
藤崎	一番用水*	張出し板	174cm	
藤崎	小用水*	張出し板	370cm	
南方2丁目	西川	張出し梁		上に家の一部が載っている
南方5丁目	観音寺用水	張出し梁		上に家の一部が載っている
森下町	祇園用水*	張出し梁		5本

・寸法の欄: ×の表示のあるものは、碑などの構造物の周囲の石囲いの寸法を示す。
・種類の欄:「張出し梁」と書かれたものは、備考欄に本数が記入されている(水路上なので長さは 測定できない)。
・種類の欄:「張出し板」と書かれたものは、長さ欄に石板の長さ(水路の長手方向の)が記入されている。
・備考の欄: ★は、本文中で写真が紹介されているもの。

表 2.5 段差工、排水口、特殊護岸

町名	用水	種類	備考
伊島町1丁目	座主川*	玉石積	
伊福町3丁目	観音寺用水	排水口	
津島福居2丁目		段差工	
野殿東町	笹ヶ瀬川*	備前積	★, 扇状の飾り石
南方1丁目	西川	排水口	
矢坂東町	滝王谷川	段差工	

・備考の欄: ★は、本文中で写真が紹介されているもの。

表 2.6 碑、灯籠、その他

町名	川名	種類	寸法	備考
旭町	西川	地蔵		
いずみ町	北富用水	地蔵		
伊福町2丁目	観音寺用水	石碑		明治33年5月10日 『皇太子殿下御婚儀記念』
伊福町2丁目	観音寺用水	石碑	441cm ×386cm	-
伊福町2丁目	観音寺用水	石柱	高198cm	1本
伊福町3丁目	観音寺用水	サイフォン		
今1丁目	西川*	狛犬		安政6年11月
今4丁目	西川*	神社の囲い		
岩田町	西川	石柱	高103cm	4本(いづれも高さは同じ)
海吉	倉安川	灯籠	高224cm	
海吉	倉安川	灯籠		『九月吉日』, 奉燈
海吉	福吉用水	灯籠	高280cm	
岡町	枝川	石碑	高158cm	昭和8年12月23日,『皇太子殿下御誕生』
奥市	御成川	石柱	高223cm	2本
北長瀬本町	西川*	墓石	高152cm	墓石, 灯籠
京橋町	旭川	石碑		『水滴のひとつひとつが笑っている顔だ』
倉益	前川	石碑	196cm ×198cm	★, 大正7年9月28日 『天照皇大神, 倉稲魂命, 大巳貴命, 少彦名命, 埴安姫命』
倉田	利平立川	石碑	高33cm	明治31年3月
倉田	前川	石碑	高133cm	『種管改築記念碑』
倉田	舟通立川	灯籠		★
倉田	舟通立川	祠		
桑野	児島湾	石碑	幅156cm	昭和15年11月 『國威宣揚 皇紀二千六百年記念』
後楽園	旭川	石碑		竹久夢二『宵待草』の歌碑
宿	合同用水*	石碑	高238 cm	明治29年5月,『富村氏子中』
大安寺西町	中の川*	石柱	高158 cm	2本
竹田	東川原用水	灯籠	高214cm	天保10年8月
田中	西川*	石碑		『地水二神 二十番神』
津倉町2丁目	座主川*	石碑	高119cm	大正12年1月
津島福居1丁目	座主川*	防火水槽	197cm ×198cm	
土田	中溝川	石碑	高147cm	『天照皇大神, 倉稲魂命, 大巳貴命, 少彦名命, 埴安姫命』
当新田	枝川*	石柱	高176cm	
中井	中田川	石碑		『****山先生之碑』
中井	中田川	石碑		『大原専次郎書』
長岡	円蔵寺川*	石柱		
中川町	倉安川	石柱	高103cm	
中仙道	西川*	石碑	高122cm	『地水神』
長利	荒神川*	石碑	高142cm	『天照皇大神, 倉稲魂命, 大巳貴命, 少彦名命, 埴安姫命』
西市	枝川*	祠	180cm ×172cm	祠の囲いが石造
平井1丁目	倉安川	石碑	高135cm	『紀元二千六百年記念』
福成2丁目	西川*	石碑	高108cm	昭和55年10月 『福成三百五十周年 開拓記念碑』
藤崎	一番用水*	祠		『第十五番』
藤崎	一番用水*	祠		
三門中町	観音寺用水	石碑	高107m	明治14年5月1日, 元標
湊	倉安川*	石碑		『天照皇大神, 倉稲魂命, 大巳貴命, 少彦名命, 埴安姫命』
南方4丁目	西川	石碑	高235cm	大正4年7月, 神社の境内
三野1丁目	西川	石柱	高198cm	2本
海吉	倉安川	石碑	高86cm	『天照皇大神, 倉稲魂命, 大巳貴命, 少彦名命, 埴安姫命』
海吉	倉安川	石碑	高84cm	『天照皇大神, 倉稲魂命, 大巳貴命, 少彦名命, 埴安姫命』
海吉	福吉用水	石碑	高94cm	『天照皇大神, 倉稲魂命, 大巳貴命, 少彦名命, 埴安姫命』
山崎	倉安川*	石碑	高149cm	大正5年3月
米倉	下中野長川	石柱	高176cm	
米倉	下中野長川	石碑	高87cm	昭和10年1月, 道標,『米倉港』
米倉	下中野長川	灯籠	高227cm	
米倉	下中野長川*	祠		『天照大御神, 大巳貴神』

・用水の欄: *は、名称不明の枝用水であることを示す。
・備考の欄: ★は、本文中で写真が紹介されているもの。

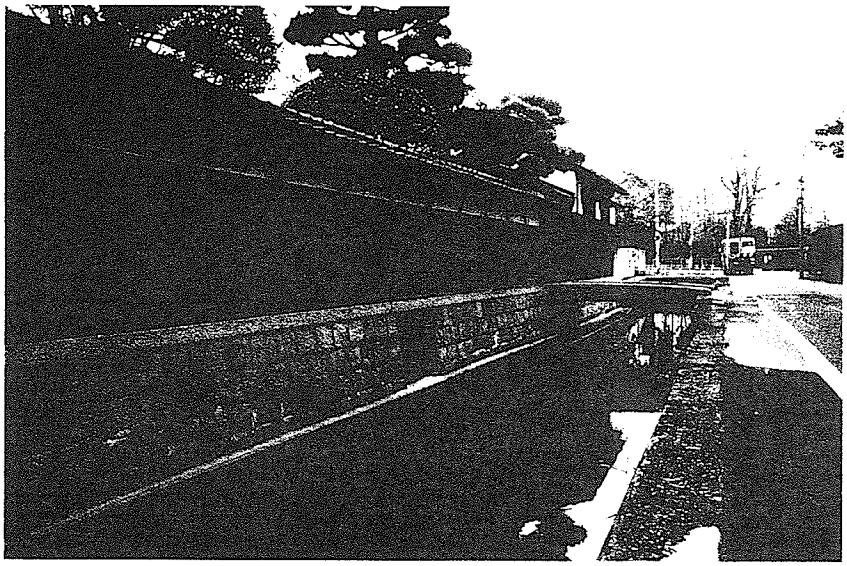

写真 4.1 観音寺用沿いの布積護岸(塀との調和が美しい)

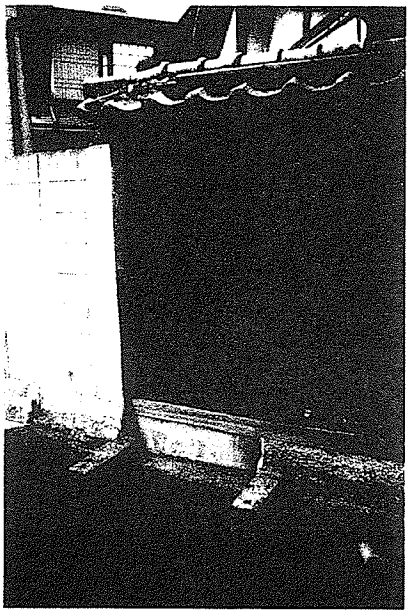

写真 4.2 壁面から突出した張出し梁
(中井町 1 丁目の西川水系)

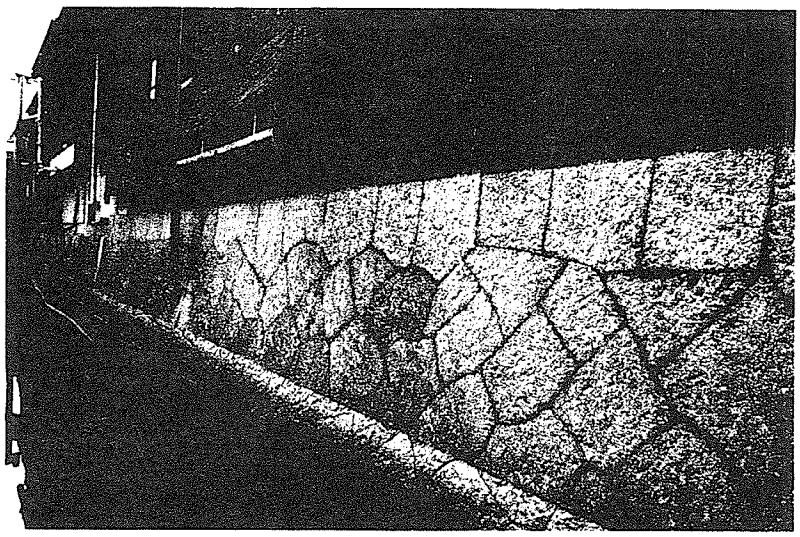

写真 4.3 扇状の飾り石をはめ込んだ護岸
(野殿東町の笹ヶ瀬川水系)

3.4 張出し、段差工、排水口、特殊護岸

張出しは 81 件、段差工(一種の砂防工)は 4 件、排水口は 4 件、特殊護岸は 2 件が確認された。「張出し」とは、水路の側壁から横もしくは縦に石材が突出しているもので、水路の長手方向に板状の石板が張り出しているケースと、水路と直交するように棒状の石梁がにょきにょきと出ているケース(例えば上の**写真 4.2**)に分かれる。前者が何に使われたのかは調査未了で把握していないが、後者は水路上に張り出した小構造物の土台(基礎)として使われていることが多い。

段差工は、水路に流れ込む渓流の取り付き部に施工されているもので、数は少ないが他に例のない外観に価値がある。

排水口(石造)は、予想した以上に少なく(土管など石造以外の排水口は数知れず存在し、用水の水質低下の大きな原因になっている)、護岸に面白い造形を施している。

水路の側壁には石積護岸が数多く残されていて、水路沿いの風景の重要な構成要素となっている。こうした護岸の存在は 1500 分の 1 の地図には記入したものの、表の形では表現しにくかったことから、本報告では割愛した。土蔵や立派な商家の基壇に用いられて布積(例えば上の**写真 4.1**)や備前積の精巧な石工の技は岡山ならではの優れた風景である。岡山市内の社寺の基壇石垣に時折見られる飾り積(扇や瓢箪の形の石をはめ込んだ石積、**写真 4.3**)は 1 ヶ所でしか見つからなかった。

張出し、段差工、排水口、特殊護岸の分布状況を前ページの**図 2.4** に、代表的な構造物のリストを前ページの**表 2.4**～**表 2.5** に示す。

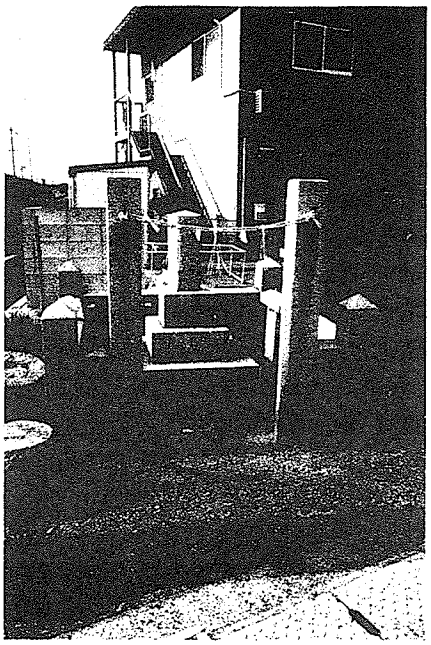

写真 5.1　五穀豊穣を願った石碑
（倉益の前川）

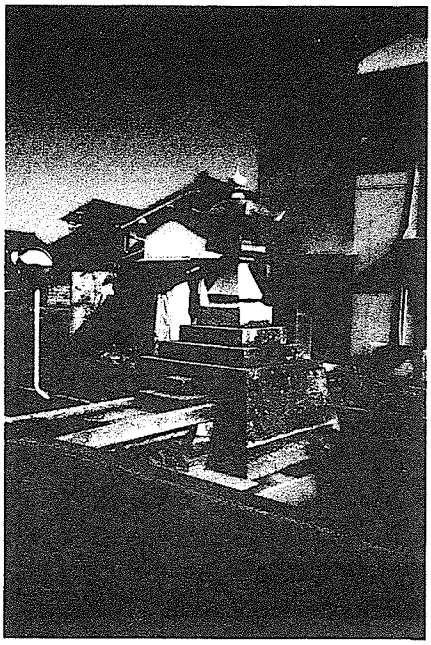

写真 5.2　舟の道標となった灯籠
（倉田の舟通立川）

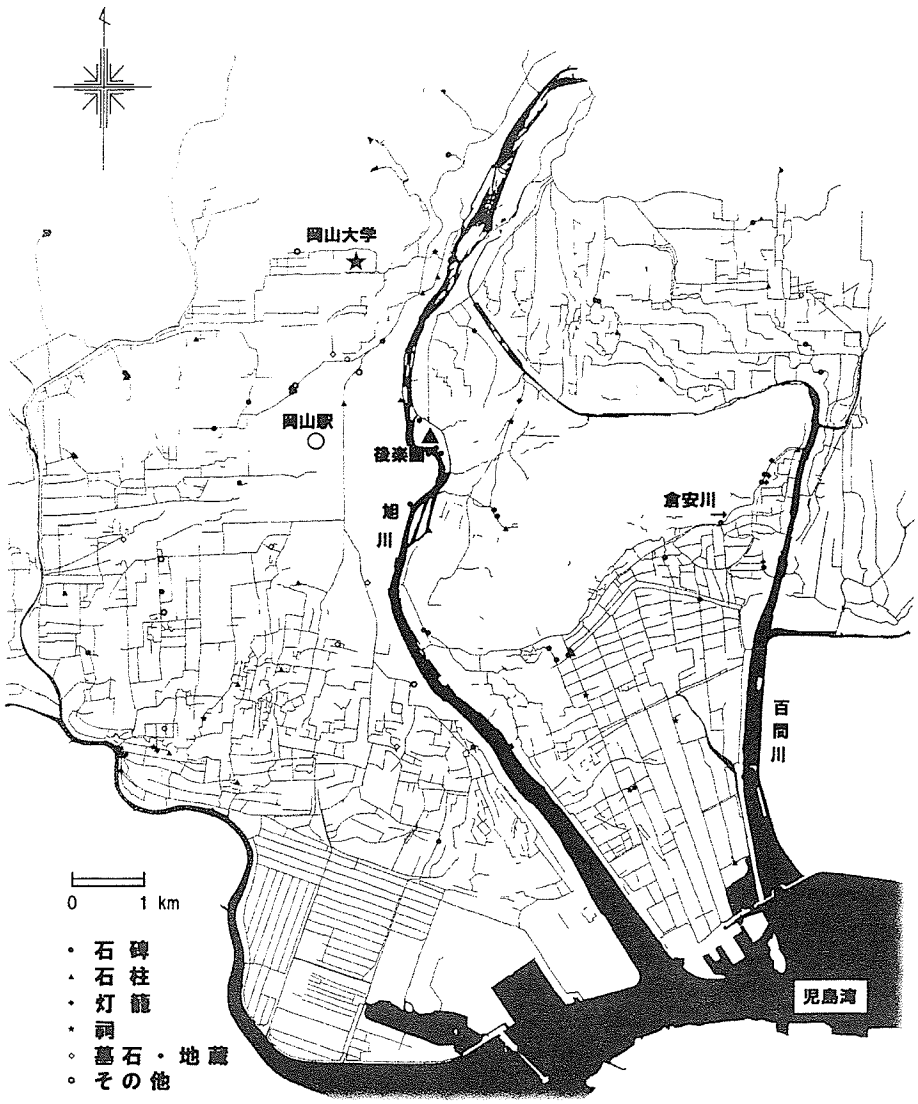

図 2.5　碑、灯籠、その他の分布

3.5 碑、灯籠、その他

ここでは、桁橋、水門、階段、張出しなど実用目的の石造物以外のものをまとめて扱う。その内訳は、碑が39件、柱が28件、灯籠が10件、祠が7件、地蔵が6件、墓が3件、神社の囲いが3件、狛犬が1件、防火水槽が1件、サンフォンが1件であった。

碑と柱は文字や刻印の有無で区別した。碑の中には、『天照皇大神，倉稲魂命，大巳貴命，少彦名命，埴安姫命』と刻まれたものが7件、『地水神』が2件、『天照大御神，大巳貴神』が1件あり、いずれも農耕の神を祀ったものである。いかにも農業用水にふさわしい石造遺構といえる。それに対し、国威発揚や皇室崇拝に係わる一群のものは、時代性を強く反映したものといえよう。このほか、墓、灯籠、祠、地蔵などいずれも宗教や祖先信仰にまつわるもので、用水路が暮らしと生活に深く根差したものであることを感じさせる。

碑、灯籠の代表例を前ページの**写真 5.1～5.2** に、分布状況を同じく前ページの**図 2.5** に、代表的な構造物のリストを**表 2.6** に示す。

4. まとめ

岡山市街地の用水路に残る石造物 1739 件の所在確認を行った。それにより、岡山市内には依然として数多くの用水が息づいていること、そこにかつての歴史と生活感を漂わせていること、水路の水は汚く住民からそっぽを向かれていても、石造施設自体は風格のある風景を構成していることが明らかになった。

本調査は卒業研究という短期決戦の枠内で行われたため、時間的制約が強く、文献上の確認（歴史的観点）や現地住民へのヒヤリング（文化史的観点）などの取り組みも全くできなかった。今後の課題として、風景論、文化論にまで広げた研究へと拡大していくべきだと感じている。また、岡山市内にはこれ以外にも石造物の残る用水路は多く、調査地域の拡大も重要なテーマとなるであろう。さらに、他都市との比較も視野に入れなくてはならない。

参考文献

1. 馬場俊介・樋口輝久・石原盛人、岡山の農業用水門—児島湾干拓地と高梁川水系の用水路に残る土木遺産群、土木史研究.第17号、pp.227-234、1997
2. 樋口輝久・馬場俊介、西日本石造文化圏における「巻石」構造物—岡山県を中心とした実態調査、土木史研究.第 18 号、pp.363-372、1998
3. 樋口輝久・馬場俊介、岡山藩の干拓地における石造樋門、土木史研究.第19号、p.99-107、1999
4. 馬場俊介・樋口輝久、瀬戸内沿岸の花崗岩文化圏の土木遺産の構造と形態、平成10年度科学研究費補助金研究成果報告書、1999
5. 岡山県史編纂委員会,『岡山県史 自然風土』, p.597,1983
6. 永山卯三,『岡山県農地史』, 世界聖典刊行協会, p.253、276、396, 1979
7. 岡山県土地改良事業団体連合会,『岡山県農業土木史』, p.698-702、707、727-734、809, 1966